

# オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2021年6月10日第7号 (通巻13号)  
オリーブの会  
大阪府豊能郡能勢町平通101-453  
tel/fax:072-737-9454  
mail: olivenokai\_zeytun@yahoo.co.jp  
facebook;oribunokai



## パレスチナの怒りの爆発

イスラエルによるガザにたいする爆撃は21日の停戦で止まり、パレスチナ人たちは、ガザや西岸で勝利を祝い、一方でイスラエル内では、停戦したことへの批判があがっている。しかし、問題は解決をしたわけではない。明確になったことを一つ上げれば、選挙を延期することで、パレスチナの分裂を固定化し、オスロの道をめざした自治政府はなんの役割も果たさなかったことである。

### シェイク・ジャラ、アルアクサでのシオニストの攻撃

今回の爆発の発端は、一つは、イスラエルが違法に併合した東エルサレムでのパレスチナ住民の追い出しである。住民と支援者が闘ってきたシェイク・ジャラで、ユダヤ人入植者が土地の所有を主張し、その土地に住む4世帯のパレスチナ人の追い出しを図ろうとした。住民はイスラエルの裁判所に訴え、彼らの居住中の合法性を訴えたが、エルサレムの地方裁判所は今年に入り、数十年前の土地購入に言及して、これらの住宅が法的にはユダヤ人家族の所有物であるという判決を下した。この判決にパレスチナ人が抗議を行い、イスラエルの占領警察と

の衝突に発展し、入植者たちは、挑発的に家屋を占拠し、対立が激化することになった。

5月15日のナクバの日を前に、過激派の入植者たちは、旧エルサレム市街で、「アラブ人に死を」と叫ぶ挑発的な行進を行い、パレスチナ人の怒りを引き起こした。

さらに、5月13日にラマダンが明け、アイドルフトルのお祝いが始まるので、アクサモスクにパレスチナ人たちが何万人とアルーアクサモスクに礼拝に集まるのを、占領軍は、西岸からパレスチナ人を阻止し、また、48年領内からくるアラブ系イスラエル人も阻止するという事態になっていた。しかし多くのパレスチナ人はこれを無視して、アルアクサに集まり、これを占領軍が暴力的に追い出そうとして、パレスチナ人との大規模な衝突となった。エルサレムでの衝突が拡大し、それが西岸だけでなく、48年領内のパレスチナ人とイスラエル警察との衝突にまで拡大した。パレスチナの怒りが爆発することになった。

そして、その怒りは、ガザの抵抗勢力によるイスラエルへのロケット攻撃になった。イスラエルはパレスチナのレッドラインを超えた。

### エルサレムの選挙の拒否とパレスチナ選挙の延期

大規模の衝突の前には、自治政府はパレスチナ選挙の延期を発表した。その理由はエルサレムでの選挙ができないことによる。自治政府は、イスラエルがエルサレムでの選挙を許可しないことを理由にした。しかし、この理由にハマスをはじめとする諸党派が、反発し、延期ではなく、選挙を行うべきであると主張した。これは、イスラエルの許可というものが、オスロ合意で、東エルサレムのパレスチナ人は、外国人として、イスラエルの郵便局で投票するというようになっており、東エルサレムでのパレスチナ人の主権は否定されていた。このようなことをイスラエルから許可をもらってやることは、東エルサレムに対するパレスチナ主権の放棄であり、これを理由にパレスチナ選挙を延期することは、パレスチナの人々にとっては、許しがいたことであった。

しかも、アッパース自治政府大統領は、この前に、イスラエルの諜報機関の長官と会談し、イスラエルから選挙の延期か、ハマスの選挙からの排除を要求されていた。イスラエルは選挙の結果、ハマスが勝つのを恐れていた。イスラエルは、アッパースの選挙の延期の発表は、パレスチナ人の中で反発が起こることを想定して、警戒態勢に入っていた。また、エルサレムのパレスチナ人の候補者を逮捕するなど行い、また、西岸のハマスの候補者を逮捕するなど、積極的に選挙の妨害を行った。

パレスチナの人々にとっては、15年ぶりの選挙は、分裂し、弱められたパレスチナを統一し、パレスチナの解放の闘いを強めるものとしてあり、オスロのくびきを断ち切るものとしてあった。選挙の延期は、それを捨て去るものでしかなかった。統一の機会は失われることになり、パレスチナ人全体からの反発を生み出した。

### イスラエル組閣の不成立。ネタニヤフの意図

イスラエル側では、4回目の総選挙を行ったにもかかわらず、どの政党も過半数を超えることはできなかった。そのためネタニヤフは、連立による組閣を目指したが、ネタニヤフをめぐる右翼政党の間での対立で組閣できなかった。反ネタニヤフ派もまた、過半数を獲得できず、5回目の選挙に行かざるを得ない状況なり、アラブ系の政党をそれぞれ、組み入れようとしたりするような事態となっていた。政府が成立しない状態で、ネタニヤフが首相を継続する事態となっていた。ネタニヤフにとっては、今回のパレスチナへの攻撃は、パレスチナへの強硬姿勢を示すことで、自らへの支持を強めさせることにあり、ネタニヤフは、容易に停戦することはできなかった。エジプトの仲介での停戦を、アメリカの圧力のもとで受

け入れたが、右翼政党からの批判を受けることになっている。

### 米国の不能とイスラエル支援

バイデン政権になって中東問題へのかかわりが弱くなり、トランプ政権が作り出した中東の状況を積極的に変えるようには、見えなかった。今回のイスラエルのパレスチナへのとりわけガザへの攻撃に対しても、「イスラエルの自衛権を認める」としか発言せず、パレスチナへの消極的な態度が見られた。国際的な停戦への動きが強まり、また、民主党内の進歩派からの批判で、パレスチナへ言及することもなく、双方の鎮静化をもとめると繰り返し言うだけであり、イスラエルへの圧力をかけようとしなかった。明確に期限を決めて停戦をもとめることを求められて、ようやく期日を決めて停戦をもとめた。停戦のための交渉を仲介していたのは、エジプトで、ハマスとイスラエルとの間接交渉で、停戦を実現させた。停戦までに、ガザでは子どもも66人を含む253人の死者が出ていた。

### 48年領内のパレスチナ人の立ち上がり

今回の抵抗闘争の大きな特徴は、48年領内のパレスチナ人、すなわち、イスラエル国籍を持つパレスチナ人が立ち上がったことである。このパレスチナとイスラエルの対立の爆発の以前から、48年領内でのパレスチナ住民のイスラエル政府に対する抗議行動が広がっていた。とくに、パレスチナコミュニティ内部で犯罪が拡大し、それをイスラエル警察が放置していることへの抗議行動が、パレスチナ人の町で起こっていた。さらに、ラマダで、アルアクサへ礼拝に行く、48年領内のパレスチナ人が、西岸からのパレスチナ人と同様にイスラエル軍によって阻止され、それでも、それを乗り越えて、アルアクサに集まったが、このイスラエルがとった行動に怒りが拡大した。

イスラエル軍は、パレスチナ人の礼拝を阻止する一方で、ユダヤ人入植者の集団がアルアクサの敷地内で、彼らの宗教儀式を行わせていた。しかも、それが連日にわたり、これがパレスチナ人の礼拝者を追い出そうとするイスラエル軍と礼拝者の衝突となり、その怒りは、48年領内のパレスチナ人にも拡大することになった。

入植者とイスラエル軍の横暴は、イスラム教徒に対してだけではなく、同じようにエルサレムを聖地とするキリスト教徒にも向けられていた。

### ガザの抵抗運動の力の拡大

エルサレムでのパレスチナ人の怒りの拡大は、西岸、48年領内のパレスチナ人だけでなく、ガザにも広がり、抵抗運動の拠点となっているガザから、ロケットがイスラエルの諸都市に向けて大量に発射されることになった。イスラエルはアイアンドームの対空防衛で対応した。それでも落としきれなかったロケットが、イスラエルの中心都市であるテルアビブにまで届いた。そして、イスラエル側にも12人の死者が出た。ロケット攻撃は、ガザからだけでなく、レバノンからも行われた。このロケット攻撃は、これまで以上にパレスチナ人を鼓舞するものとなり、イスラエルとの停戦をパレスチナ人たちは、パレスチナの勝利として祝った。これまで、一方的にイスラエル占領軍に虐げられてきたパレスチナ人にとって対等に停戦を実現できたことは、大きな喜びである。

それは、オスロに固執していたアッパース大統領の自治政府の影を薄くするものとなった。しかし、米国、イスラエルは、ハマスの存在を認めることはできないため、ガザの復興援助も自治政府を通してやるとしている。また、エルサレムにあった米国領事館を再開するとした。トランプが廃止するまで、パレスチナとのコンタクトを保つ役割をもっていたが、これも自治政府とのコンタク

トの再開を意味する。

### パレスチナの解放への道

トランプ政権の登場は、その明確なイスラエル支持の立場によって、自治政府ですらオスロを拒否し、イスラエルとの共同を停止するといわざるを得ない状態をつくりだした。それを基盤として、これまでオスロに反対してきたハマスをはじめとするパレスチナ勢力との間で、統一の機運が高まり、そして、15年ぶりの総選挙へ向かわせた。前回の選挙ではハマスが勝利し、ハマスが政府を作るようになったが、それを嫌うイスラエル、米国、西欧諸国の支援を背景に、ファタハがクーデターを起こし、西岸はファタハが、ガザがハマスという分裂状態をつくりだした。双方で、反対派を弾圧した。この状態は、イスラエル、米国の望む状態であった。

しかし、この分裂が続く限り、イスラエルと米国の思う壺であり、イスラエルとアラブ諸国の「正常化」の遠因にもなっている。

今回のイスラエルとの闘いで、パレスチナ人自身の力で状況を切り開き、米国、イスラエルを追い詰めることができることが明確となった。また、歴史的パレスチナ全体でのパレスチナ人の立ち上がりは、イスラエル内に動揺を生み、パレスチナ解放への道につながるだろう。



Mothly Review 誌に2021年5月17日に投稿されました。帝国、国家抑圧、戦略、戦争イスラエル、パレスチナニューズワイヤー土地の日、リッダ、イスラエルのパレスチナ市民

初版：Lana Tatourによるモンドワイス（2021年5月13日） |

今週初め、パレスチナの48年領の町や都市で大規模な抗議行動が勃発しました。'48年領内パレスチナ人(イスラエルの「市民」として知られる)は、エルサレムのシェイク・ジャラでパレスチナ人家族が直面している追放の脅威に抗議し、イスラエルのアルアクサモスクへの攻撃に抗議するために動員しました。

イスラエルがシェイクジャラの家族に対する暴力をエスカレートさせたため、ラマダンの聖なる月とガザ

のアルアクサモスクの礼拝者たち、48年のパレスチナ人の抗議もエスカレートしました。パレスチナ人は、ナカブからガリラヤまで、生きている記憶の中で「48年領のパレスチナ人の中で最も広まった抗議」となったもので、彼らの集団で出てきました：Rahat, Tal al-Sabe', Shkieb al-Salam, Shefa' American, Yaffa, Haifa, Akka, Nazareth Lydd, Umm al-Fahem, 'Ain Mahel, Baka al-Gharbiye, Majd al-Kroum, 'Arabe, al-Be'ene, al-Zarazir, Ramla, Kufr Kana, Jaljoulye, Kufr Manda, Jdaydet al-Makr, Reine, Mashhad, Kufr Kana, そしてリストはどんどん増えています。それに対応して、パレスチナ人は野蛮なイスラエル軍と出会った。イスラエルが日を追うごとに弾圧を強めたため、抗議行動は特に激しくなった。イスラエルは、ユダヤ人とパレ

スチナ人の人口が混在する48年のパレスチナの都市の状況を特に心配するようになりました。リッダ(ロッド)はイスラエル政府にとって特別な関心事になりました。リッダ市での最近の暴力は、イスラエルのルーベン・リブリン大統領やリッダ市長のヤイル・ラヴィボを含む多くの人々によって「内戦」と表現されており、「内戦はロッドで勃発した」と宣言した。ガーディアン、デイリーメール、BBC、ロイターのヘッドラインは、ほんの数例の国際的なメディアアウトレットを挙げて、この物語に従い、市民の不安と展開する内戦の問題としてそれを組み立てました。

しかし、内戦の物語は誤解を招き、イスラエルの手に渡っています。それは、入植者植民地の権力関係、入植者植民地の暴力、ユダヤ人至上主義者の暴力を覆い隠します。私たちが目撃しているのは、「衝突」ではなく、2つの等しい側の間ではなく、イスラエルの入植者国家とシオニスト民兵が、植民地化された「市民」に対して戦争を宣言していることです。

イスラエルはパレスチナ人の大規模な抗議を決して容認していません。1976年の土地の日、イスラエル警察は6人のパレスチナ人を射殺し、2000年10月の事件で13人が、第2次インティファダの初めに噴火しました。したがって、過去数日間の抗議は、極端なレベルの警察の暴力に直面している。イスラエル軍はスタングレネード、催涙ガス弾、スカンク水、そして今ではゴム弾も使用しています。抗議者はひどく殴打され、治療を拒否され、未成年者を含む数百人が逮捕され、一部は法的代理人を拒否されました。パレスチナの町や都市は戦争地帯のように見えます。

イスラエルで一般的な物語は、主権の喪失の1つです。ネタニヤフはそれを無政府状態と呼んだ。「法の支配がなければ、何もありません」と彼は言いました。したがって、談話は秩序を回復し、支配を取り戻すことの一つとなった。その残忍さで知られる国境警備隊は、パレスチナの都市や町に配備されるように西岸から呼ばれました。リッダ(ロッド)は、ユダヤ人の主権を取り戻すための象徴となりました。1966年以来初めて、48年のパレスチナ人がまだ軍事政権下にあったとき、イスラエルは緊急権力を行使し、夜間外出禁止令が市に課されました。6つの陸軍ユニットがそれだけで配備されました。

イスラエルが軍隊を配備している間、「ユダヤ人」、「ユダヤ人の町」、「ユダヤ人国家」を守るために、市民の入植者民兵が協力して組織しました。何十年にもわたるパレスチナ人の意図的な人間性の抹殺の産物であり、軍事化された警察の支援を受けて、彼らはパレスチナ人の家、

人々、企業を標的にし始めました。リッダでは、ムサ・ハッソーナがユダヤ人入植者に射殺されました。銃撃者は後に逮捕されたが、警察大臣でネタニヤフの最も近い同盟者の1人であるアミールオハナは、彼次第だと彼は釈放されるだろうと言って銃撃者を支持した。

オハナの声明は、ユダヤ人入植者がパレスチナ人を免責で攻撃し続けることを大胆にした。パレスチナ人活動家は、極右のユダヤ人入植者グループがパレスチナ人の町に侵入してパレスチナ人を攻撃するように支持者に呼びかけた数十件の電話を記録した。これまでのところ、ピークは水曜日でした。パレスチナ人の家を銃撃している通りを歩き回っている武装した暴徒の恐ろしいシーン、財産、モスク、教会を破壊する。彼らはリンチするパレスチナ人を探しました。バットヤムでは、パレスチナ人の男性がテレビの生放送でリンチされ、現在、重傷を負って入院しています。エルサレムでは、ユダヤ人入植者がパレスチナ人の男性を刺しました。この男性も深刻な状態にあります。

この時点で、イスラエルのメディアと政治家は、状況を内戦として説明するようになりました。内戦の物語はイスラエルに有利に働き、パレスチナ人に対する暴力を衝突として提示するため、国際メディアと国際社会のタブロフの本能に影響を及ぼします。そこでは、暴力を与えている2つの当事者の間に対称性があります。

内戦の言説は、パレスチナ人に対する暴力が起こっている植民地の文脈を消し去ります。それは、入植者植民地の残虐行為、国家が認可した暴力、そして国が支援するユダヤ人至上主義者グループによる、土地の先住民であるパレスチナ人に対するポグロムの1つである地上の現実を隠すように設計されています。今週のポグロムは、進行中の国内紛争における不幸な出来事の転換として提示されます。この枠組みにより、イスラエルは、両グループの利益のために市民の不安が拡大するのを防ぐための試みとして、48年のパレスチナ人に対する軍事介入を提示することができます。

政府は、その軍隊を介して、中立的なアクターになります。ユダヤ系アメリカ人の暴徒を支援することから、オハナは彼の調子を「憎しみと混ぜた暴力は完全に非難されるべきである」に変えました。他の国はありません。私たちはここに一緒に住まなければなりません。」

前回の選挙でネタニヤフによって公的に支持された、エルサレムの悪名高い旗の行進の設計者であり、カハネ主義のMKであるベザレル・スモトリツヒでさえ、パレスチナ人男性のリンチについてツイートしました。私たちは困難な日々であり、攻撃を受け、欲求不満を感

じています…「しかし、なんてことだ、ユダヤ人はどうしてそんなに残酷なのだろうか？ひどい。」わずか2週間前、スモトリッヒはパレスチナ人がイスラエルでの彼らの存在は一時的なものであることを覚えておくべきだとツイートした。曲がどれだけ簡単に変わるか。

私たちが今目撃しているポグロムは異常ではありません。イスラエル国家は、治安部隊、軍隊、警察を雇用するか、代理の民兵を使用することにより、この暴力を主導しています。恐ろしい映像は、イスラエル警察がポグロムに加わり、パレスチナ人の家に押し入り、パレスチナ人であるという理由だけで彼らを威嚇し、殴打し、逮捕したことを示しています。

イスラエルは、48年のパレスチナ人の存在と和解したことはなく、彼らが消えるのを見たいと思っています。Yousef Munayyer がコメントしているように、これは「イスラエル国家がさらなる民族浄化を実行するために利用できる非常に危険な瞬間」です。’48年領内パレスチナ人はそれをよく知っています。彼らは、すべてのパレスチナ人のように、このトラウマと将来の追放の不安を生きています。

重要なことに、内戦の言説は、パレスチナの人々とそれが団結したときの彼らの抵抗を断片化する危険性があります。イスラエルは内戦の枠組みを48年のパレスチ

ナ人にも適用し、他のパレスチナ人には適用しません。そうすることで、イスラエル市民として、そしてユダヤ人国家の内部問題として彼らを再び家畜化しようとすることによって、この強力な瞬間を取り消すことを目指しています。

’48年領内パレスチナ人は、イスラエル市民ではなく、パレスチナ人として抵抗してきました。イスラエルは、それを内戦または宗派間の暴力と見なすことで、48年のパレスチナ人を困り込み、彼らを（劣った）イスラエル市民として飼いたいと考えています。結局のところ、イスラエルのパレスチナ市民権はイスラエルの支配体制の一部だからです。

’48年領内パレスチナ人は自分たちをイスラエル人とは見なしていませんが、パレスチナ人を見なしています。「48年領内のパレスチナ人は、彼らが象徴的なアイデンティティとしてだけでなく、解放の政治的プロジェクトとしてもパレスチナ人であると断言してきました。パレスチナの解放は彼らの解放です。そして、この蜂起が私たちに示していることがあるとすれば、パレスチナ人の断片化に抵抗し、パレスチナ人が一人として動員するとき、脱植民地化のためのパレスチナ人の闘争はより強くなるということです。



彼らはエルサレム門からオスロにしがみついている

アルアクサの礼拝者を襲うイスラエル占領軍

2021年4月30日に投稿 | 10:10 (PFLPのホームページからの転載)

ラゼム・オベイダト

立法選挙の延期がエルサレムで選挙をすると主張している問題とリンクしていると誰が信じているか、中央選挙委員会の監督下でエルサレム選挙、指名、および選挙宣伝で行われる。ここで意味するのは、占領自治体の管轄下にある聖なる町や村であり、「エルサレム1」と変容して知られている、21のエルサレム人町、集まりである。エルサレムでの選挙は、ラマツラ、ナブルスなどのように、占領国に有利な不均衡にあることを十分に認識して

おり、この認識と定理によれば予見可能な将来に選挙を行うことはありえません。それらは、これは虚偽として意図された言葉であり、私たち選挙を行わなければならないと言う人々と戦うための武器です。エルサレムの街、そして私たちはそれらを実行することを可能にする方法とメカニズム、そしてそれらへのエルサレムの参加を追求します。選挙の口実の下で占領者との政治的、民衆、大衆の衝突の問題が提起されたとき、選挙リストを作成できず、敷居をまったく超えることができなかった人々が私たちにやって来ました、そしてファタハはそのリストの中で彼のための場所を保証しませんでした、そして

## オリープの会通信 第7号(通巻13号)

ファタハの歴史的役割の終わりとこれらの場所の篡奪が終わりに来たことに彼らは気づいた。彼らはエルサレムでの選挙を望んでおり、そこでの衝突ではないことを私たちに伝えました。彼らは彼らの声明、声明、メディア、そしてこの目標に役立つ多くの活動やイベントの頻度によって彼らの間で役割を調整し分配しました、そして選挙を延期しないのではなくキャンセルする目標に達するために、彼らはエルサレムの参加なしに選挙を進めることはできないと私たちに言ったが、その見返りに彼らはヨーロッパとアメリカの圧力を待っている。特にアメリカが大使館をエルサレムに移し、周辺国はエルサレムを占領国の首都として承認した後、イスラエルがそのシオニズムから離れて達成したすべての利益を放棄するかのように考えるのは間違いであり、選挙がエルサレムで行われることを可能にするかどうかはイスラエル次第です。そして、アッバース大統領が話しているようにエルサレムで選挙が行われることを許可することはない。彼は、オスロ合意を完全に理解しています。彼は自治政府がまだそれに固執し、エルサレムの問題をいわゆる最終段階に延期しました。これは、27年の経過にもかかわらず、占領当局がユダヤ人のために、エルサレムの街を占領するために昼夜を問わず働きました。そしてこの合意の範囲内で、自治政府はエルサレムで選挙を行うことに合意し、エルサレムは、彼らのうちの限定された人数で選挙に参加することに。5327人以下の有権者が、外国の市民として5つのイスラエルの郵便センターで占領軍の監視のもとで、地域、国際的な監視団なしで、また、候補者の代表もなしで行われことに同意しました。そして残りの有権者はエルサレムの郊外の投票所で投票することに。エルサレムで選挙宣伝を行わないことを強調している。同じシーンがありました。2006年1月の立法選挙で繰り返され、イスラエルの郵便局の有権者数は(6300)人に増え、イスラエルの郵便局は6か所に増えました。... したがって、西欧とアメリカがとることができる最大値、および占領国に及ぼされるすべての国際的な圧力は、オスロの上限を超えることはありません... そしてエルサレムでの選挙を望む自治政府は完全に理解しています。イスラエルの郵便局での選挙の保持に固執することは、2020年1月17日のオスロの安全保障、政治的および経済的義務からの撤退と密接に関連している、この解消はほとんどのパレスチナ勢力が拒否したが、彼らはこれらの選挙に参加するために戻った、そしてこのオプションへの自治政府による従属は、新しいアメリカの政権に賭けて、無駄な交渉のマラソンに戻る前置きとしてオスロに従属することです... したがって、私はオ

スロの公式に従って自治政府が実施する選挙への延期を拒否するすべてのパレスチナ勢力にとって選挙人リストとともに自治政府が、オスロ合意に基づいて行う選挙への参加の拒否を表明する必要があります。自治政府がオスロトラックからの離脱を発表し、そのすべての義務を遵守し、自治政府の役割と機能を変更し、すべてのパレスチナの政治勢力を確保するパレスチナ解放機構のツールの1つである私たちの民族全体の使用人になることが必要である。それは、2006年1月の立法選挙および最近のすべての進展、そしてその後起こった変化に従って、回復され、再構成される必要があります。... 選挙を取り消すためにエルサレム問題を引き起こした自治政府、そして私たちが見つけた権力を握る人々の指導者の多くとファタの公式指導部の「革命的な」声明は、占領の鼻先で選挙と立候補としてエルサレムで選挙を課すと述べており、別の刺激的で優秀な指導者は、解放運動は占領下で選挙を行わず、選挙は一度だけと述べています。そして大きな不幸は彼が選挙ファイルを導くことに参加していたということです。そして、ハマス運動との合意、そして彼は占領下で開催された運動の2つの会議でファタハ本部に選出されました。

時間の制限のない選挙問題の延期、つまりキャンセルは、一連の内部および外部の問題に関連しています。内部問題は、ハマスとの共同リスト、民族統一リストの失敗が主要な理由であり、また、獄中のマルワン・バルグティが大統領候補として入ってきたことなどで、それらは新しい立法議会のバランスを変えるものであり、アッバース大統領が合意候補者として大統領に勝つことを保証しないだけでなく、政治内の断片化、意見の不一致、分裂の状態力、特にファタハに関連する複数のリストの存在(嵐、自由、そして未来)と他の15のリストの存在。バランスから、聴衆、有権者、そしてその結果としての新しい立法評議会における政治勢力の比率と規模の分布の変化により、ファタハを第一勢力としないだろう。その権限を失い、組織、そして内部の枠組みでは、政府の形成のためにハマス運動と調整することを余儀なくされるかもしれませんが、あるいはおそらくそれは「自由と未来」のリストに対処して交渉する必要があります。

これらの変数は確かにイスラエルに起こる可能性があります。イスラエルは、エルサレムでの選挙ではなく、一般的なパレスチナ選挙を望んでおらず、アメリカも同様であり、無駄な交渉マラソンを再開したいと望んでいます。その頭にひびが入った新指導部の前で、前のア

プローチとオプションをそのままにします。より危険なのは、それ自体を理解することです。イスラエルは囚われの大統領に対処することを余儀なくされており、これが国際レベルでイスラエルに対して大きな恥辱を引き起こすだろう。

化石化し、ミイラ化した退屈な指導者たちの時代が過ぎた後、地位と特権を享受し、歴史的役割が最後の目的地に達し、息を吞んでいるパレスチナ人の名の下に代表と決定を奪ったいくつかの党派は、選挙ブロックを形成することができず、投票の比率を超えることができない。ファタハが自分たちの身内を収容しなかったために、それを安全な場所にそれを運ぶことを拒否した場合、それはそのような人々をどのように収容するのでしょうか、そしてそれが彼らのエルサレム門からの選挙の延期またはキャンセルの波に乗り出した理由である。

イスラエルの郵便局での投票へのエルサレムの参加に従うことは、パレスチナのエルサレムの本質を変えるものではありませんが、この従属は、オスロの公式とそのコミットメントに従って再び交渉のパレスチナの政治的段階に戻る準備をする前置きとしてのオスロの公約の非解消と密接に関連しています。

外的理由としては、イスラエル、アラブ、国際的にこ

れらの選挙の実施を拒否しており、イスラエルの「シンベット」ナダブ・アルガマン長官はアッパース大統領との会談でこれを表明した。その中で、パレスチナの選挙が延期され、パレスチナ民族評議会の勝利を恐れて開催されなかったのと同様に、占領国の外相間の議論の焦点は、アシュケナージとプリンケン米國務長官でした。

私たちは、選挙の延期または中止に起因する深刻な課題と影響に直面しています。それは、一方では指導者と諸勢力、他方では大衆の間の信頼の喪失状態を深めるだけでなく、そのような政治体制がその正当性を失う存在下で選挙は行われず、また、分裂、統治権、占領に照らして公正な選挙が行われることはありません。むしろ、問題は、混乱の拡大、安全保障の混乱、民兵の力、地域主義の拡大、部族主義と部族主義、国家とコミュニティの構築の崩壊、そして外部の条件と命令へのより多くの服従のリスクのポイントに到達します。占領状態、そしてPLOを根本的に再建し、回復することを要求するだけでなく、おそらく代替組織の形成を要求し、「死者を称え、彼を埋葬する」というスローガンの下で権力の転覆を要求する呼びかけです。

自治政府はオスロの文化、選択、方法を離れません。またそれはアラブ-アメリカ枢軸のマントの下からでることはない。



## ガザの食糧生産と農業を救え

2021年5月28日 UAWC

農業部門が麻痺、70%以上の人が食料不安

イスラエルの占領軍は11日間連続して、ガザのパレスチナ人に集団的処罰を課すことにより、国際法と人道法を無視し続けました。5月21日の時点で、イスラエルの虐殺により、60人の子供と40人の女性を含む260人以上の殉教者が殺されました。1,900人以上が負傷し、その60%以上が子供と女性であり、その多くは永続的な障害を抱えて生き延びています。国連人権高等弁務官事務所(OHCHR)によると、現在、373,000

人以上の子供たちが長期的な心理的支援を必要としているという事実に加えて、これらすべてが実現します。

パレスチナ情報省 - 政府メディア オフィスは、120,000人が家から強制的に避難させられたと発表しました。

2021年5月21日の国連人道問題調整事務所(OCHA)の最新の報告によると、5月20日現在、77,000人以上の国内難民が23の指定緊急シェルター(DES)を含む58のUNRWA学校で保護を求めています。停戦の発表後、大多数の人々が帰国していますが、家屋が全壊または甚大な被害を受けた約1000人が今も残っています。

ガザの農業省は、温室、農地、養鶏場を含む約2,700

## オリーブの会通信 第7号(通巻13号)

万ドルの損害を見積もった。国連と援助グループは、パレスチナ人は現在、水施設へのアクセスが制限されているか、まったくアクセスできないと述べています。パレスチナ情報省 - ガザの政府報道局が共有した情報によると、動物農場、井戸、灌漑ネットワークなどの 490 の農業施設が被害を受けた。11 の下水道施設が爆撃され、50 の井戸が破壊され、17,200 メートルの下水道網が破壊され、10,500 平方メートルの道路網も破壊されました。メインストリートとインフラが爆撃され破壊されることに加えて 14,000 メートルの長さの水道管が完全に破壊されました。

ガザの農業省によると、畜産部門への被害は毎日 2 倍になっています。過去数日間で、牛の飼育者は 15,000 リットル以上の牛乳を廃棄しました。なぜなら、彼らはそれらを市場に出すことができないからです。農民や育種家が自分たちの土地や農業施設にアクセスするリスクが強調されていることは、依然として懸念事項です。さらに、敵対行為の結果、数十頭の羊が失われ、多くのミツバチの巣箱が破壊されました。

今日まで、海は完全に閉鎖されており、3,600 の漁民世帯に影響を与える漁業活動の完全な中断につながっています。北ガザのアン・ナジェの井戸と送水パイプラインの破壊により、この地域の約 5 万人の水へのアクセスが妨げられました。伝えられるところによると、この地域の他の井戸も被害を受けた。バイト ラヒアでも上下水道網が損傷し、操業が中断され、水の損失と排水の漏出が発生し、少なくとも 65,000 人が影響を受けました。北ガザ海水淡水化プラントは、労働者が直面するリスクと電力供給ラインの損傷により操業を停止し、約 25 万人の飲料水へのアクセスに影響を及ぼしています。電力不足は、今でも井戸や貯水池、廃水処理施設を含むガザのすべての洗浄施設に影響を及ぼしています。

国連は、ガザ地区の約 80 万人が、水道網の 50% 近くが爆撃で損傷したため、きれいな水道水を定期的に利用できていないと述べた。

UAWC の緊急被害評価チームとガザとヨルダン川西岸の地方委員会は、ガザのすべての都市への現地視察を通じて被害を数え、計算しました。UAWC のチームが実施した初期迅速評価によると、次のように推定されています。

- ・ 50 の太陽エネルギー ユニットが破壊された。
- ・ 190 の農業用池が破壊された。
- ・ 30,000 km の灌漑ネットワークと送電線が破壊された。
- 500 ドゥナムの作物が破壊された
- ・ 2,100 の温室が破壊された。

- ・ 20 の農業用井戸が破壊された
- ・ 50 隻の漁船が破壊された。
- ・ ミサイルによって農地が破壊された 220 の穴。
- ・ 動物部門で 200 ~ 250 頭が死亡

### アクションの呼びかけ

影響を受ける地域やコミュニティの緊急の必要性が高まっているため、UAWC は緊急対応キャンペーンを開始し、国内避難民一般と、緊急かつ長期的な回復を必要とする合計 10,000 の農家と漁師の家族を対象としています。したがって、このキャンペーンは、50 トンの救援物資を提供することで、被災した家族の差し迫ったニーズに応えることを目指しています。このキャンペーンはさらに、イスラエルの軍事攻撃の停止後、農業部門内で直ちに必要となる重要な介入を実行するための準備をすることを目的としており、生計に劇的な影響を与えている、そして今後も継続するであろう莫大な農業損失への対応として機能します。農業活動に大きく依存しています。したがって、このキャンペーンは、短期の緊急対応フェーズと 1 年間の農業回復フェーズを想定しています。UAWC は引き続き状況を監視し、ニーズを更新し、それに応じて計画を調整します。

UAWC を通じて、ガザの農業部門への即時の援助アクセスと支援を要請する：2 つのレベルの介入

1. 早急な一次復旧と、あらゆるレベルでの基本的な投入生産ユニットの提供。ガザの開発を逆転させるには、回復力のある生計手段の保護と促進を直ちに開始しなければなりません。これも：

- 動物飼料および獣医用品の提供
- 農地の再生
- 保護されたマーケティング チャネルの提供
- 貯水ユニットのリハビリ
- 漁船と漁具の賠償
- 温室の修復と
- 生産を再開するために必要なツールの提供

2. 高度な中期的介入

- 農地や道路の修復
- 灌漑ネットワークの設置と新しい井戸の建設
- 太陽エネルギーユニットの提供
- 貯水ユニットと獣医用品の提供
- 損傷した動物シェルターの補償

ガザを復活させるための UAWC の活動に貢献したい場合は、遠慮なく [s.karajeh@uawc-pal.org](mailto:s.karajeh@uawc-pal.org) までご連絡いただくか、0097202-2421712 までお電話ください。





**土地の日：パレスチナの農民、漁師、遊牧民に課せられた闘争と違反の概要。**

2021-03-30

UAWC

1948年の戦争以前は、パレスチナ人は歴史的なパレスチナの総面積の約78%を所有しており、残りは「当時の英国委任統治領によって分類された国有地でした[1]。今日、2021年、イスラエル人は歴史的なパレスチナの総人口の52%を占めていますが、総土地の85%以上を利用しています。一方、パレスチナ人は人口の48%を占め、土地の15%を利用しています(PCBS、プレスリリース、2019年) この急激な割合の変化は、「イスラエル」の占領によるパレスチナの土地での土地盗難の行動を示しています。

1967年から2017年の間に、200の入植地が設立され、そのうち131が町として公式に発表され、東エルサレムの11の地区、およびガザの16の入植地があります。ヨルダン川西岸の入植地には62万人以上の居住者がおり、そのうち413,400人がヨルダン川西岸の違法な入植地に住んでいます。これらの入植地は538,127ドゥナム以上に広がり、ヨルダン川西岸の最大10%を占めています。ヨルダン川西岸の別の1,650,376ドゥナム(1ドゥナム=1キロ平方メートル)は「イスラエル」の影響下にあり、したがって、入植地はヨルダン川西岸の40%を支配しています。ヨルダン川西岸の高または中農業価値に分類される土地の盗難の合計は、2,072千ドゥナムであり、ヨルダン川西岸の約37%を構成しています。パレスチナ人は、ヨルダン川西岸地域の約17%を占める931.5千のドゥナムしか使用していません。(PCBS、プレスリリース、2019年)

「イスラエル」は1967年に始まった併合計画を進めています。C地域の「イスラエル」占領の支配下にある106,000人のパレスチナ人と併合の「イスラエル」の主要目標の1つであるヨルダン渓谷を含む併合地域計画では、それはの農業地域の最大50%を占めており、「イスラエル」はすでに谷の88%を占領しており、パレスチナ人がこれらの土地の利益や使用を妨げています。

これまで、パレスチナ人は、土地収用、没収、併合の継続的な不正と、パレスチナ人の追放による違法な入植地の存在により、日々苦勞しています。今日、推定476,033人のイスラエル人入植者がパレスチナの占領地に住んでおり[6]、国際法に著しく違反しています。国際社会からの繰り返しの非難にもかかわらず、すべて「イスラエル」政府の財政的および政治的支援の下で。[7] これらの行動は、ジュネーブ第4条約第49条(6)に直接違反しており、「個人または大量の強制移送、ならびに被保護者の占領地から占領国の領土または他の国の領土への強制送還、彼らの動機に関係なく、禁止されていない。」

**土地の日について：**

1967年と6月の悲惨な戦争の後、「イスラエル」は残りのパレスチナ領土、東エルサレム、ガザ地区、シリアのゴラン高原を占領することができました。今日、このイベントはアラビア語で敗北を意味するナクサとして知られています。750,000人以上のパレスチナ人が家を失い、行き場がなくなりました。彼らのほとんどは、自分たちの土地に戻る権利を得ることを期待して、古い家の鍵を持って海外に住んでいます。

1976年3月11日に発表された「イスラエル」によるガリラヤの収用への対応として、パレスチナ人はゼネストを開始し、併合計画に従って占領によって押収される恐れのある影響を受けた20,000の砂丘を救うために行進しました。アラブ人。これらの抗議行動は、ガザ、ヨルダン川西岸、レバノンのパレスチナ難民キャンプ、そして「イスラエル」のパレスチナの町や都市で行われました。占領軍は、抗議行動を抑制し、100人以上のパレスチナ人を負傷させ、そのうち6人を殺害することで対応した。それ以来、3月30日はパレスチナの土地の日としてマークされ、その間にパレスチナ人は彼らの最愛の土地を保護するために命を犠牲にした人々を記念します。

**パレスチナ人の農民の権利に対する違反：**

農民に対する違反や犯罪はさまざまでした。その中で最も重要なのは、平和的な集会の権利の侵害、身体的完全性、農民の平和的活動への攻撃であり、農民が水や土

## オリーブの会通信 第7号(通巻13号)

地にアクセスできず、畑で働く人々に身体的脅威を与えることでした。2020年の後半、UAWCは、解体命令と没収命令の間の68の軍事命令を監視し、入植地拡大のために6,000本の木を根こそぎにし、3,500ドゥナムの土地を強奪するとともに、700を超える農民への攻撃を記録しました。後半の攻撃は、ヨルダン川西岸の農民と土地に限定されず、ガザ地区の漁師、そのポート、農地にも影響を及ぼし、ガザ地区の漁師を200回攻撃し、4人の漁師を負傷させ、2人を没収した。ポート。

占領軍のこれらの攻撃は明らかな違反です。世界人権宣言、戦争時の民間人の権利に関する第4回ジュネーブ条約、経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約を含む、国際法、人権および世界的に署名された条約のパレスチナ基本法の記事に加えて、農民と農村地域で働く人々の権利に関する世界人権宣言、および先住民の権利に関する国連宣言。さらに、樹木を燃やしたり根こそぎにしたりすることは、国際公法の一部門であ

る地球環境法に違反します。作物の破壊と下水の汲み上げは、先住民の権利に関する宣言の第29条に違反しています。

今年のパレスチナの土地の日から45周年を迎え、終わりのない違反と没収があり、多くの人々が故郷から離れた外国に住み、他の人々は土地を失う恐れがあるため、現在の状況に照らしてパレスチナの土地を保護するための地上での活動を防止および制限する条件として、私たち農業労働委員会は、国際社会と国際人権機関に対し、その脅威の下で農民の権利を保護するための措置を講じるよう呼びかけます。-「世紀の取引」と呼ばれるこの取引では、パレスチナ人にとって最も肥沃な土地であるため、パレスチナ人の歴史的な食料バスケットと見なされているパレスチナの谷を含む、分類された土地の30%以上が併合されます(C)、豊富な天然資源であり、将来のパレスチナ人にとっての食糧主権の鍵です。



### 国境のある世界 (パレスチナポップの台頭 3回目)

BBC カルチャーより訳出

ガザの人々は旅行するのが非常に困難です。国境の出入り口は2つだけです。ラファとエズで、それぞれエジプトとイスラエルの当局によって管理されています。ラファを通過するには、2つのリストのいずれかに登録する必要があります。1つはハマス関連の内務省が調整し、もう1つはエジプト当局が調整します。これらのリストは長く、国境が常に開いているとは限らないため、待機時間は予測できません。2018年5月以前は、年に数日しか開いていませんでしたが、その後状況は改善しています。エジプトの警官はまた、申請を迅速化するために、2,000米ドル(1,600ポンド)から10,000米ドル(8,000ポンド)の範囲の賄賂を受け取り、パレスチナのブローカーを介して支払われたと主張されています。これは大多数にとって手ごろな価格ではなく、お金のない人々にはほとんど希望がありません。

一方、エズも注意が必要であり、安全上の理由から、イスラエルで定義されたカテゴリの人々、主に緊急の医療処置が必要な人々のみが許可の対象となります。許可

はビジネスマン、学生、アーティストにも付与されますが、保証はされていません。PMXは毎年Solに代わって申請し、毎回拒否されるだけです。今年、彼らは幸運に恵まれましたが、ナスララだけが、24年ぶりにガザを出ることができました。彼は公演のほんの数時間前に電話で通知を受けた。

「パレスチナはとても小さな土地であり、あなたの周りには国境があります」と、カレミのメンバーである地元アーティスト、ラシャ・ナハスは私に言います。「多くのワルなアーティスト、ミュージシャン、思想家が彼らの信じていることに一生懸命取り組んでいるので、それはイライラします。」

ナハスはイスラエルのハイファで生まれたため、ヨルダン川西岸の外への旅行が許可されているという特権がありますが、この地域ではイスラエルを国家として認めている国がほとんどないため、中東を旅行することはできません。彼女は現在ベルリンを拠点としており、そこで最初のマネジメント会社と契約し、ソロアーティストとしてのキャリアを追求しています。彼女のファーストアルバムは、汚れたエレキギターのトーンと詩的な叙

情性を備えたロックンロールの親密なテイクで、来年リリースされます。



ロックバンドのElContainerは、公式の国籍が「未定義」であり、パスポートを持っていないため、ツアーに苦労しています(クレジット: David Corio)

エルサレムで生まれた人々の立場は独特に複雑です。1967年の第三次中東戦争後に東エルサレムを占領して併合した後、イスラエルはパレスチナの住民にイスラエルの市民権を提供しましたが、多くは拒否し、代わりに永住権を取得し、イスラエルでの生活、仕事、利益の享受を可能にしました。彼らはいわゆる「レッセ・パッセ(laissez-passer)」と呼ばれる、イスラエルを通過するための渡航文書を持っていますが、市民権がないために取得するのが難しいビザなしで他の国に渡ることはできません。

### それはビジネスであり、彼らは私たちから多くのお金を稼ぐことはできません - スレイマン・ハルブ

ロックバンドのElContainerを例にとってみましょう。6人のメンバー全員が東エルサレムで育ったため、イスラエルに永住権を持っていますが、正式な国籍は「未定義」であり、パスポートを持っていません。バンドメンバーのスレイマン・ハルブは、旅行するには、めったにこない入国ビザの承認を期待して、オンラインでフェスティバルに申し込む必要があると説明しています。「私たちが自分でそれをするだけなら、それは可能性が高いですビザは取得できません」とハーバー氏は言います。「しかし、これには多額の費用がかかり、帰国の保証がないため、とにかく通常のツアーを行うことはできませんでした。」

また、レーベルはレバノン、シリア、ドバイなどの主要なアラビア市場をツアーできないバンドに署名するこ

とを躊躇しているため、これは彼らの音楽をリリースするチャンスを奪います。「それはビジネスであり、彼らは私たちから多くのお金を稼ぐことはできません」とスレイマンは言います。「他のバンドと同じ問題の上に住んでいるため、これらの厳しい状況の問題があります。」

これらの困難にもかかわらず、バンドはトルコ、イタリア、モロッコ、ヨルダン、エジプトで演奏しました。間違った意図で送信されたため、他の招待を辞退しました。「彼らは同じステージでイスラエルとパレスチナのバンドをつなぎ、同じ空間に存在できることを示しようとしているので、音楽が焦点になることは決してありません」とハルブは言います。

ゴラン高原のミュージシャンは、同じ理由で同様の困難に直面しています。イスラエルは、6日間の戦争の後、シリアから奪った土地を併合しました。シリア人ですが、地元のミュージシャンは同様の制限を受けているため、パレスチナのシーンの一部と見なされています。シリアへの旅行も許可されていないため、イスラエルとヨルダン川西岸のみを通過できます。



DAMは、パレスチナの最初のヒップホップグループであり、その初期の最も有名なブレイクアウトアクトの1つでした(クレジット: David Corio)

プロモーターが定期的にパレスチナ人と名付けているTootArdの4人のメンバーはすべて、ゴラン地域のマジダル・シャムスの村で育ち、イスラエルに永住権を持っていますが、正式な国籍も「未定義」であり、パスポートを持っていません。ビザの問題により、バイルート、ドバイ、クウェート、アルジェリアからのオファーを拒否せざるを得なくなりました。これらは特に厳しいビザ要件があります。

パレスチナの領土全体で、多くの芸術家は世界のプラットフォームを獲得することで同様の課題に直面しています。ムラド、TootArd、El Container、ラシャ・ナハスなど、これらの一部は国際的な視聴者を開拓し始め

## オリープの会通信 第7号(通巻13号)

ていますが、他の人はまだ直面している境界に同意しています。彼らをつなげるのは、変化に対する楽観主義です。

### [パレスチナ音楽] シーンには多様性があり、それが始まっています - マハムード・ジェレ、DAM

マハムード・ジェレは、この進化を監視してきました。ジェレは、タメル兄弟とスヘル・ナハル兄弟とともに、パレスチナ自治区の最初のヒップホップグループであり、最も有名なブレイクアウト活動の1つであるDAMの一部です。バンドが結成された1999年、オルタナティブミュージックのパレスチナの風景は、1980年代にエルサレムで結成されたサブリーンを除いて不毛でした。彼らの音楽は、アラビアの古典音楽やポップ音楽の愛とロマンスとは対照的に、現実と暴力について語っていた

め、パレスチナ人と関係がありました。「それが、DAMがヒップホップを書くことに決めた理由です。人々が同じように感じたので私たちはブレイク・アウトしたと思います」とジェレは言います。

インターネットを利用して、アーティストは国境を越えて作品を配信できるようになり、2006年に登録したロンドンのレーベルRCM - Red Circle Musicとつながりました。DAMの成功はパレスチナのヒップホップの時代に影響を与えましたが、それだけではありません。最近、この地域の音楽タペストリーが発展しました。「ヒップホップがブレイク・アウトしましたが、今違うのは他のジャンルです」とジェレは説明します。「現在、[パレスチナ音楽] シーンには多様性があり、それが始まっています。」

### DAMを含むリッダ(ロッド)のパレスチナ人コミュニティから: イスラエルの制裁されたポグロムからの先住民のパレスチナ人の国際的な保護を!

2021年5月13日

私たちパレスチナのヒップホップバンドDAMのメンバーは、リッダ(ロッド)に住んでおり、昨夜、極右のイスラエル過激派による人種差別的な攻撃で、リッダ(ロッド)、ラムラ、ハイファ、ヤッファ、アッカなどで兄弟姉妹と一緒に生き残りました。手遅れになる前に私たちを守るために、私たちは大多数の人々が参加と即時の国際的介入を呼びかけています。

リッダ(ロッド)は現在のイスラエルのパレスチナの都市であり、ナクバの間にその先住民のほとんどが民族浄化されました。皮肉なことに、リッダ(ロッド)の私たちのコミュニティのほとんどは、ナクバの間にヤッファや他の民族浄化されたパレスチナのコミュニティから街に逃げた難民です。

実際、昨夜、イスラエル市民権を持つ先住民のパレスチナ人は、軍事化された警察から完全に保護され、イスラエル政府の全面的な励ましを受けているユダヤ人のイスラエルの暴徒によって行われた複数のポグロムとリンチの試みに直面しました。ヤッファ(ヤファ)、ラムレ、エーカー(アッカ)、ハイファなどのコミュニティに対するこれらの人種差別的な攻撃は、占領下のエルサレムにいるパレスチナ人の兄弟に対する4月のポグロムに触発されています。

十分な視覚的証拠は、これらの人種差別的な攻撃におけるイスラエル警察の完全な共犯を疑いの余地なく記録しています。結局のところ、私たちを二級市民としてだ

けでなく、不可欠な非人間としても扱っているイスラエル政府は、これらの攻撃をあからさまに支持し、正当化してきました。

4月、ヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)は広範な法的分析で、パレスチナ人全体がイスラエルのアパルトヘイトの1つのシステムの下で生活していると結論付けました。このように、HRWは、このアパルトヘイトの現実を何十年にもわたって公開してきた多くのパレスチナ人権団体や支持者に加わっています。イスラエルの主要な人権団体であるベツェレムは、今年初めに「ヨルダン川から地中海へのユダヤ人の覇権の体制: これはアパルトヘイトです」というタイトルのレポートで同様の結論に達しました。

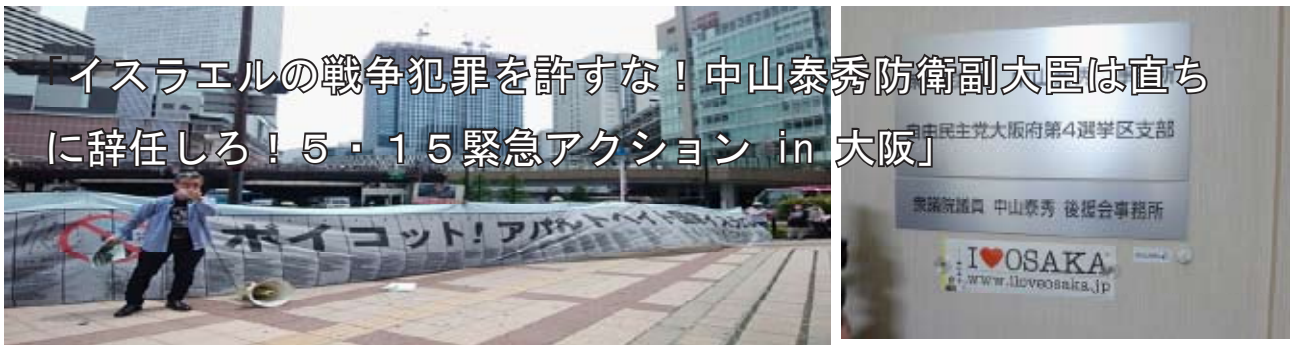
私たちは、世界中のすべてのミュージシャン、アーティスト、文化的労働者、良心の人々に、以下に対する私たちの単純な要求を可能な限り増幅するよう呼びかけます。

ヒューマン・ライツ・ウォッチとパレスチナ市民社会が推奨する、イスラエルのアパルトヘイトに関する国連の調査を。

イスラエルの先住民パレスチナ人コミュニティを、国家が認可した人種差別的暴力、民族浄化、ポグロムから保護するための国連平和維持軍を。

南アフリカの反アパルトヘイト指導者であるデズモンド・ツツ大司教がかつて言ったように、「あなたが不正の状況で中立であるならば、あなたは抑圧者の側を選んだ」。

「中立」のままにしないでください。あなたの恐れを克服し、歴史の正しい側に立ってください。すべての抑圧を終わらせることは#InOurHandsです。



イスラエルの戦争犯罪を許すな！中山泰秀防衛副大臣は直ちに辞任しろ！5・15緊急アクション in 大阪

「イスラエルの戦争犯罪を許すな！中山泰秀防衛副大臣は直ちに辞任しろ！5・15緊急アクション in 大阪」は、ヨドバシカメラ梅田まで、40人近くの市民が参加し、以下の内容のビラ（呼び掛け文と同じ）を撒きました。

◇ ◇ ◇ ◇

10日に始まるイスラエル軍のガザ空爆により、すでに27人の子供を含む103人のパレスチナ人が命を奪われました。そのような中で、中山泰秀防衛副大臣は、イスラエルロビーの手ほどきの下、「私達の心はイスラエルと共にあります」と、一方的に侵略者を支持する発言をしました。

今回のイスラエルの攻撃は、被占領エルサレム、シェイクジャッラ地区住民に対する入植者への家屋明け渡し命令、そしてそれに対する抗議活動への弾圧、さらにラマダーン中、エルサレム旧市街のアルアクサー・モスクで礼拝する人々に対するイスラエル治安部隊の攻撃といった一連のパレスチナ人弾圧が激化していく中で起きました。

軍・警察による暴力は、イスラエルの極右グループ、さらには一般市民による暴力を触発し、イスラエル内のパレスチナ人マイノリティに対する襲撃が多発しています。

今、パレスチナ人および公正な平和を求めるイスラエル人は、世界に向けて、イスラエルに対する国際的圧力を強化するよう呼び掛けています。私たちは、彼／彼女らの声に応え、あらためて、イスラエルに対するBDS（ボイコット、資本引揚げ、制裁）を呼びかけます。また、戦争犯罪を扇動する中山防衛副大臣の即時罷免を求めます。ぜひ、ヨドバシ梅田前に集まり、一緒に声を上げて下さい！

◇ ◇ ◇ ◇

情宣活動ののち、約10人で中山康秀防衛副大臣の個人事務所に徒歩で移動。

事務所が入る大阪北野ビルの横には、赤色とを回転させたパトカーが待機していました。約束の時間には少し早かったのですが、事務所を訪問。

中山議員の秘書がしてきました。「写真やビデオ撮影をやめてほしい」「時節柄、大人数はやめてほしい」とのこと。

はじめは2名までと言っていましたが、最終的に3名が入室することに。

要請文を読み上げて、ツイッター投稿の削除、発言の謝罪などを求めました。

また、ツイッター投稿を謝罪する、もしくはなんらかの意見を述べる会見を開く予定があるのかと問いかけました。

秘書は、「東京の方で、副大臣の仕事で忙しくしているので、わからない」と述べました。

さらに抗議行動に参加したアラブ出身の方が、「日本はアラブのためにいいことをしてくれて来たのに、中山議員の発言には失望した」と発言。

秘書は、か細い声で「中山議員も以前ヨルダンを訪問しています」と一言。

「中山議員のツイッターには、その発言を批判するものがリツイートされていたようですが、このような抗議はきていますか」と聞くと、メールとかでも来ているとのこと。

最後に要請文への回答を求め、引き揚げました。



# おいしいパレスチナ



ラマダンに間に合うようにナイムのモロヘイヤを楽しんでください！（ラマダンは終わりました）

私たちの同僚は、お気に入りのラマダン料理の西岸の母親からのレシピを共有しています。彼女の母親にとって、彼女は「それは必要ではなく、料理する義務でもありません。それは芸術です」と書いています。

モロヘイヤの主な成分はその名前の由来です。他の名前の中でも、エジプトのほうれん草としても知られている苦い葉の多い植物です。

材料

モロヘイヤの葉の2ポンド（約900グラム）

チキン1・5羽

ご飯3カップ

塩大さじ1・5杯

コショウ小さじ1杯

オールスパイス小さじ1/2杯。

にんにく6片

玉ねぎ1個

スマック

燻製パプリカ

乾燥コリアンダー小さじ1杯

- ・モロヘイヤの葉を細かく刻み、すすぎ、水気を切る。
- ・鶏肉を細かく切り、レモンと塩で15分間マリネした後、洗い流します。鶏肉を鍋に入れ、玉ねぎ1個とにんにく2片をさいの目に切る。火にかけ10分間混ぜます。
- ・鶏肉に3クオート（2・8リットル）の水を注ぎ、沸騰させます。数分ごとに上に上がる脂肪をすくい取るようにしてください。塩大さじ1½、コショウ小さじ1、オールスパイス小さじ1/2をスープに混ぜます。鶏肉が柔らかくなるまで約30分かかります。
- ・鶏肉を水から取り出して鍋に入れ、コショウ、鶏肉のスパイス、スマック、燻製パプリカを加えます。鶏肉がカリカリになるまでオープンに10分入れます。
- ・水気を切ったモロヘイヤの葉をチキンブロスに30分間入れます。上に上がる脂肪をすくい取ります。
- ・ニンニク4片を切り刻み、乾燥コリアンダーと大さじ2杯の食用油を入れた鍋に入れます。
- ・この混合物を取り、沸騰しているモロヘイヤシチューの上に注ぎます。さらに10分間沸騰させ、火を切ります。ご飯を添えて食欲をそそります！

## 守ろう！オリーブの木を カンバのお願い

### オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。  
パレスチナの農民の土地を守る闘い、  
生活を守る闘いを支援します。  
集まった基金は、パレスチナ農業  
労働委員会連合（UAWC）に送ります。

郵便振替

記号番号：00960-2-303500番

名称：オリーブの会（オリーブノカイ）

他行等から振り込む場合

店名（店番）：〇九九店（099）

預金種目：当座

口座番号0303500

# パレスチナの詩

## モハムード・ダルウイシュ

### エルサレムで

エルサレムで、つまり古代の壁の中で、  
私は記憶なしである時代から別の時代へと歩きます  
私を導くために。あそこの預言者は分かち合っています  
聖なる歴史... 天国に昇る  
愛のために落胆したり憂鬱になったりすることが少なくな  
ります

そして平和は聖なるものであり、町にやって来ています。  
私は坂を歩いて自分自身を考えていました：どのように  
ナレーターは、光が石について何を言っているかについ  
て意見が分かれていますか？

戦争が燃え上がるのは薄暗い石からですか？

私は眠りにつく。私は眠りを見つめます。そうですか  
私の後ろには誰もいない。目の前に誰もいない。  
このすべての光は私のためです。私は歩く。軽くなりま  
す。私は飛ぶ

それから私は別のものになります。変貌した。言葉  
イザヤの使者から草のように芽を出す

口：「あなたが信じないなら、あなたは安全ではないで  
しょう。」

私はまるで別人のように歩きます。そして私の傷は白  
聖書のバラ。そして私の手は2羽の鳩のように  
地球をホバリングして運ぶ十字架上。

私は歩かない、飛ぶ、別の人になる、  
変貌した。場所も時間もありません。それで私は誰で  
すか？

私はアセンションの前にいる私ではありません。しかし、私

自分で考えてください：一人で、預言者ムハンマド  
古典アラビア語を話しました。「そして何？」

じゃあ何？女性兵士が叫んだ：

それはまたあなたですか？私はあなたを殺しませんで  
したか？

私は言った：あなたは私を殺した... そして私はあなた  
のように死ぬのを忘れた。

### 6月の帰還

40回の6月 (Forty Junes) : 家への道中の戦車。

鳥を観察するための軍の管制塔

半円形でホバリングする鳩。不毛のヤシの木

怒りが爆発し兄が弟を殺して逃げる

彼の母親から。スローガンが通りを照らします。我々

人生を愛し、その敵を憎む。狭い通り

女の子が歩かないところ。地図に対して学生によるデモ

ンストレーション。

「そこから降りてくる神はいない。

通行人が私に ばかげて言います。「私にはヒーローが  
いない

6月がさりげなく届いてから

私たちは神に誓います。今何時ですか？]

「時計の調子が悪い」と私は言います

彼は言います。「そして私のはいつも間違っている」

トラックは通り過ぎる

ヘブライ名の商品の輸送

水、果物、小麦、ワインの箱、彼は次のように述べてい  
ます。

まるで自分たちの泉、ブドウ、自分の名前を忘れたか  
のように、

そして仮面が私たちのアイデンティティーにならないた  
めに

ここに隠されているものはすべてはっきりと見えます」

40回の6月はこちら。土地は収縮し、そこに住む人々は  
増殖し、貧しい人々のための草、アラブの労働者のた  
めのアシュケナージの必要以上に余剰

だけど しぶしぶも 我慢してカナダへ 動かない。

ここは私たちの土地、空は本物

比喩ではなく、私たちの希望として高いです。彼は私に  
こう言います。

「6月は思い出ですか？」と私は言います:「それは傷です」

その犠牲者は痛みを忘れたと言っていますが、それでも  
激しい出血は続いています。



ロンドン15万人が5月15日抗議行動を行った



マレーシアでの抗議行動



ヨルダンでの抗議行動



東京で、様々な様々な人が抗議デモに集まった

## 今号の内容

パレスチナの怒りの爆発・・・・・・1

これは内戦ではなく、入植者植民地の残酷行為です・・・3

彼らはエルサレム門からオスロにしがみついている・・・・・・5

ガザの食料生産と農業を救え・・・・・・7

土地の日・・・・・・9

パレスチナポップの台頭(3)・・・11

DAMを含むリッジのパレスチナ人コミュニティから・・・・・・12

5・15抗議行動報告・・・・・・12

おいしいパレスチナ・・・・・・14

パレスチナの詩・・・・・・15



東京、イスラエル大使館への抗議デモ



大阪梅田淀橋カメラ前のスタンディング